

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 10月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201644		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム あいの里ふぁみりあ1号棟・2号棟		
所在地	札幌市北区あいの里4条3丁目1-10 (電話) 011-770-5050		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年10月6日	評価確定日	平成21年10月28日

【情報提供票より】(平成 21年 9月 24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 15年 12月 24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	14人、非常勤 3人、常勤換算 13.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	105,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 (4~9月) 1日300円 (10~3月) 1日400円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780 円		

(4) 利用者の概要(9月 24日現在)

利用者人数	11 名	男性	6 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌優翔館病院 たにぐち歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市の郊外の静かな新興住宅地の中にあるグループホームで、ホームの裏には防風林や遊歩道があり、自然に親しめる良好な環境である。外国産の木材を利用した2ユニット平屋建ての広々とした造りであり、共用空間の天井は高く、天窓から光を取り入れるなど明るく温かみを感じられる。管理者、職員のサービス向上に積極的に取り組む姿勢がうかがえ、災害対策や家族報告などの点でも具体的な取り組みが実施されている。また法人全体でのバックアップ体制があり、職員研修や利用者の送迎などの点で本部支援が充実しており、医療面での支援体制も充実している。また職員同士のコミュニケーションが良好で、利用者一人ひとりを尊重した介護サービスに生かされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は、「理念の共有」「家族への報告」「災害対策」など項目について積極的に改善に取り組み、成果をあげている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価は全職員が説明を受けユニットごとに意見を集約して作成している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は町内副会長や利用者家族、地域包括センター、外部有識者等が参加し2ヶ月に1度開催されている。家族の参加がやや少ないもののホームの状況報告や災害対策、自己評価・外部評価などをテーマに意見交換され、議事録も整備されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	面会時に家族の意見を聞いたり、玄関に意見箱を設置している。一方、運営推進会議への家族の参加は少なく、家族会も設置されていないなど家族等意見を吸い上げる機会は十分とはいえないので、運営推進会議への家族の積極的な参加を促したり、ホーム独自のアンケートを実施するなど、家族等意見を吸い上げる機会の増加を期待する。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

町内会に加入し、お祭りや七夕などの行事に参加している。またボランティアを受け入れるなど交流を行なっている。一方、地域の住民が参加できる様な行事の開催や小学生等の来訪などの機会は少なく、今後は地域の方も参加できる様なホームでの行事開催や小学校等へのアプローチに取り組んでいく意向であり、その取り組みに期待する。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人共通の理念の中に「社会的緩和」（四季を感じる行事、地域とともにあること、町内会への参加等の内容）を掲げており、地域密着型サービスとしての理念を確立している。今後、ホーム独自の理念も検討中である。	○	ホーム独自の理念を作成する方針とのことであり、全員が参加した地域密着型の理念づくりを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念およびホーム目標は玄関ホールやスタッフスペースなど見やすい部分に掲示されている。職員は研修等で説明を受け、理念を記した携帯カードを持ち歩いている。また理念を念頭に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、お祭りや七夕などの行事に参加している。またボランティアを受け入れるなど交流を行なっている。一方、地域の住民が参加できる様な行事の開催や小学生等の来訪などの機会は少ない。	○	今後は地域の方も参加できる様なホームでの行事開催や小学校等へのアプローチに取り組んでいく意向であり、その取り組みに期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が説明を受けユニットごとに意見を集約して作成している。前回の改善課題は、「理念の共有」「家族への報告」「災害対策」など項目について積極的に改善に取り組み、成果をあげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は町内副会長や利用者家族、地域包括センター、外部有識者等が参加し2ヶ月に1度開催されている。家族の参加がやや少ないもののホームの状況報告や災害対策、自己評価・外部評価などをテーマに意見交換され、議事録も整備されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センターの担当者に参加してもらっている。また区のグループホーム連絡協議会主催の研修に参加し質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に報告するほか、来訪の少ない家族に電話報告を行なっている。カラフルな写真を多用した「あいの里ファミレター」を作成し家族に送付しており、現在は四半期ごとの作成としているが、頻度を上げる方向である。金銭出納報告は毎月郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の意見を聞いたり、玄関に意見箱を設置している。また重要事項説明書に外部の苦情受付機関を明示している。一方、運営推進会議への家族の参加は少なく、家族会も設置されていないなど家族等意見を吸い上げる機会は十分とはいえない。	○	今後、運営推進会議への家族の積極的な参加を促したり、ホーム独自のアンケートを実施するなど、家族等意見を吸い上げる機会の増加を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の待遇改善を図り退職をなるべく少なくなるよう努力している。ユニット間や他のホーム間の異動も最小限としている。交代する場合は、引継ぎ期間を設けたり、利用者一人ひとりに納得してもらえる説明を行なっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修が2ヶ月に1回程度開催されるほか、法人のグループホーム部門の研修も毎月開催されている。外部研修も全職員に年に数回の参加機会が確保されており、研修報告も行なわれている。また、職員の個人面談が実施され本人の希望に応じて育成方針を立てている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム管理者連絡会を通じて他のグループホームとの交流を行なっている。また連絡会主催の職員研修に一般職員が参加し、グループ討論などを通じて他のホームと交流ができている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前になるべく本人がホームに訪問し、見学、納得したうえで入居してもらうようにしているが、入院等で来ることができない場合は、管理者や職員が本人を訪問し馴染みの関係を築くようにしている。入居後ホームに馴染みにくい場合は、当初の家族に来てもらう回数を増やすなどして工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と対等な関係で接しており、料理のコツや畑仕事、政治、その他の昔話などを教えてもらっている。また夜勤時に利用者が職員に同情して声をかけてくれるなど、お互いに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望をしぐさや表情などから把握し、職員間で情報を共有している。センター方式による個々の利用者のアセスメントシートを作成しているが、生活歴に関する情報に関して今後も充実していく余地が残されている。	○	利用者個々の生活歴等の情報について家族等の協力を得てさらなる充実を図り、情報の共有により、サービス向上に向けた本人本位での活用を期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービスの利用開始時に、家族の意向や本人の状態を開き、主治医の医療情報を参考にして、暫定の介護計画を作成する。サービスを提供する中で、2週間～1ヶ月内に把握した内容をサービス担当者会議で話し合い、現状に即した計画書を作り上げている。その内容を家族に説明し、変更も取り入れ同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画はサービス担当者会議で3ヶ月ごとに見直ししている。生活アセスメント記録なども参考に情報を交換し、サービス内容の再確認から、状態に変化が生じた場合は、新たな計画書を作成し家族の了解を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の車両をいつでも利用できる態勢をとっており、受診の送迎を行っている。理容室への送り迎えなど、個人の要望に沿っての柔軟な支援もある。また同区にある数ヶ所の法人事業所の連携から、各行事に参加する楽しさを提供している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に受診先の意向を確認しているが、24時間の医療連携の安心感もあり、利用者はほぼ協力医療機関に受診している。月2回の主治医の往診、週1回の看護師の訪問がある。治療で必要な時は家族も受診に同行し、説明を受けている。薬の変更、検査の結果などは電話で報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の契約時に、「重度化した場合における対応に係る指針」を説明している。医療処置が生じた場合は、看取り介護が困難であることを示し、入院や施設への移行に不安がないように配慮し、家族、関係者、職員間で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導など声かけに配慮するよう、管理者は職員に日々指導している。名前も丁寧な呼び方を使い、愛称を好む人には、居室内でなど状況に応じた対応を話し合っている。個人情報の書類等は事務所に保管しているが、居間で記録を書くこともあり、取扱いの工夫を考えているところである。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調により、また入浴、食事の希望を聞きながら利用者のペースに沿って支援をしている。散歩や行きつけの理容室など個人の希望に沿った配慮もある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせて食事をしやすいように、テーブルの高さが調整されている。介助をしながら職員も一緒に食卓につき、音楽を流し、ゆったりした食事風景である。誕生日に好きなものを取り入れたり、畑で採れた枝豆やトマトを食卓に載せて食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、日・祭日・夜間を除きいつでも入れる態勢になっており、希望があれば日曜日でも可能である。体調を見ながら最低でも週2回の入浴を支援している。入浴を嫌がる利用者には声かけや職員を代えて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	重度化し意欲や理解力の低下がみられる人もいるが、もやしの根とり、いんげんの筋とりなど簡単な作業を試し出来ることをさぐっている。庭やテラスでの花火大会やバーベキューなどを楽しみ、法人の合同行事に参加したりして気晴らしの機会を提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季には近くの遊歩道や公園を数人で散歩し、車椅子利用者も外に出てホーム周囲を回り、テラスでお茶を飲み日光浴を楽しんでいる。また、家族と外出する機会も多い。	○	事業所の行事が単発的に行われているが、冬季の外出も含め年間計画を立案し、余裕をもった準備で利用者が参加しやすい行事の取り組みに期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	平屋で開放的な建物なので、玄関にセンサーを取り付け、職員の連携で出入りに注意し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出の際は、後について見守り、安全に心掛けている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回自主的に避難訓練を行っている。日中と夜間を想定した初期消火や誘導など、訓練の様子を写真に撮って課題を話し合い、万全に備えている。秋には消防署の指導の下、地域の協力も得て訓練を行う予定である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が献立表をつくり、外部に食材を発注している。食事量、水分量は「生活アセスメントシート記録」で把握し、体重の変動には量などを調整し、主治医に相談しながら栄養バランスに配慮している。	○	法人全体で食材業者とカロリー計算を含めた提携を検討中とのことなので、その仕組みに沿った今後の取り組みに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を基調にした広い共有空間は明るく開放的である。また廊下幅は広く、車椅子移動も容易である。居間や廊下奥の窓を大きくとり、外の景色を眺めてゆったりと座って過ごせるよう、要所にテーブルやソファが用意されている。壁には季節の作品や行事の写真が貼られており、生活感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはトイレと洗面所、備え付けのロッカーが配置されている。広い居室には整理ダンス、籐椅子、テレビなどが持ち込まれており、自宅生活の延長のような暮らしが感じられる居室もある。家族の写真、置物などその人らしく過ごせるような工夫がなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。